

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972400315		
法人名	医療法人 一心会		
事業所名	グループホームよりあい		
所在地	吾川郡仁淀川町岩丸43-1		
自己評価作成日	平成28年10月20日	評価結果 市町村受理日	平成29年2月6日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、緑と清流に囲まれた自然豊かな環境の中で、認知症の進行を少しでも緩和できるよう、また良い刺激ももっていただけるようホームでのイベントや、地域の方達とのふれあいに重点をおき支援させていただいております。そして施設での目標であります「生き生き生きる」を今年も推進し、「目指せ100歳！」を念頭に皆が元気で長生きすることを目指し、「まだまだやるぞ！」の気持ちをもって頑張っております。お宅訪問や町内外へのドライブ、買い物を通して意欲を引き出し楽しみを持っていただくことも積極的に行っております。

そして何より、母体法人の病院が徒歩1分と24時間体制での対応・相談が可能なのが、強みの一つであります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/39/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon:true&amp;JkyosyoCd=3972400315-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/39/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon:true&amp;JkyosyoCd=3972400315-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成28年12月6日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の南面は溪谷に接し、遮るものがないため日当たりが良く、利用者は対岸の山の景色を見て四季の変化を感じている。母体病院がすぐ近くにあるため、医療連携が取りやすく、利用者・家族、職員の安心につながっている。利用者の大半が地域の出身であり、散歩や買い物で知り合いに出会うことも多く、あいさつを交わして馴染みの関係を継続している。

事業所は利用者の外出支援に力を入れ、利用者も外出を好み職員と一緒にほぼ毎日事業所周辺や商店街を散歩したり、外気浴で気分転換をしている。身体を動かすことで利用者の食欲も増し、健康維持に役立っている。

また、日々の生活の中で各利用者の思いの表れた言葉を匿名で書きとめ、小冊子にまとめて関係機関や地域に配布し、事業所と利用者への理解を促進している。管理者は、利用者へのアセスメントやモニタリング様式を工夫し、各利用者の様々な情報を把握することに努め、利用者が楽しく生活できることを目指して介護計画を作成し、職員で共有しながら実践している。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設ホール、事務所にいつでも目にとまるよう運営理念を張り出している。また、月1回のカンファレンス時には理念を読み上げ、施設の目指す道しるべとして再確認し、頭に入れるようにしている。	「その人らしい穏やかな生活のサポート、心を込めたサービス、地域住民とのふれ合い」を事業所理念とし、「生き生き生きる、目指せ百歳」を年間目標に定め、月1回のカンファレンスで読み上げて共有を図り、介護計画やケアに活かしている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物に商店街に出向いたり、日々近所の方と挨拶を通して関わりを持っている。また、町のイベント等(祭りや子供達の運動会見学など)にも参加させていただき、地域の人たちとの交流も積極的に行っている。	散歩や買い物で出会う住民と挨拶し、近所から野菜や山菜のおすそ分けがあるなど、日常的に地域と交流している。また、地区の清掃や芸能祭等のイベントに出かけるほか、事業所の夕涼み会では来所者に料理を提供したり、保育園児とも敬老会、運動会で交流している。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体法人の病院待合へ貼り絵や絵手紙の作品を展示し、多くの方に見ていただいている。そして、施設の祭りにも地域の方を招待し、一緒にふれあうことで様子を見ていただける機会もある。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、活動報告等を通じて取り組みを知っていただいている。また、インシデント等、具体的に、時には写真を掲載して説明し、改善案に対しご意見をいただいで、速やかに対応するようにしている。	会議には同一法人の他のグループホーム管理者も出席して、意見を共有している。事業所からの活動報告、外部評価結果等の報告に基づき、意見交換を行い、その後の対応も報告している。議事録は報告事項、意見等を詳細に記録し、事業所だより等で家族に概要を周知している。	会議の構成メンバーについて、地域からの幅広い意見や情報を収集し、運営上の協力体制を築いていくためにも、会議に参加できる地域代表の増員について、検討することを期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や介護認定更新時等の機会に情報の共有をしている。また、町が主催する研修等にも参加するように心がけ(最近では9月15日地域ケア会議)、関係を築くようにしている。町主催の文化展への毎年作品出品も行っている。	町には運営推進会議や相談を通じて、関係課、地域包括支援センターに実情を伝え、運営への協力を仰いでいる。また、文化祭への出展や図書館利用について、町教育委員会と連絡し合うほか、発足した地域ケア会議へ出席し、連携していくことにしている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設事務所に、身体拘束(抑制)禁止の対象となる具体例(11項目+1項目)とグレーゾーンの存在、高齢者虐待防止法の概要を書面で貼り出し、職員全員が把握しながら、時に注意しながら取り組んでいる。	高齢者虐待防止の研修会に出席し、研修内容を職員で共有している。言葉による行動制限等があれば、職員同士でその場で注意し、拘束に該当するかどうか申し送りの場等で確認している。玄関には施錠せず、外出傾向のある利用者には一緒に出かけて見守り、安全を第一に利用者の自由な生活を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にも積極的に参加するよう心がけ、最近では9月24日にも「介護福祉士としての虐待防止と職業倫理について」の研修に、異動で来たばかりの若い職員に参加してもらっている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、研修の機会に度々聞かれる内容で、頭に入れている。日常生活支援事業や成年後見制度についても、社会福祉協議会や地域包括支援センターに伺ったり、資料をファイルするようにしている。まだ、相談段階の利用者がおられ、問い合わせ等も行ってはいたが、利用には至っていない。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規程・重要事項説明書・外部評価資料をお渡しして説明し、理解・納得していただいたのちに契約という形をとっている。改定の場合は、その旨、文書郵送と面会時や、電話等でも説明し、承諾を得るようにしている。また、家族会等の機会にも再度説明を行って以後、意見も伺うようにしている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	平成28年は2月にご利用者のアンケート調査を行い、3月の家族会で報告済み。そして3月にはご家族へのアンケート調査を行い、集計してご家族に結果を郵送。運営推進会議でも報告させていただき、改善に努めている。	毎年家族と利用者アンケートを取り、家族には職員対応や行事参加、家族会への希望等、利用者には入浴、食事、起床時間、外出等への意向を聞いて運営に生かしている。そのほか、年2回の家族会や面会時にも利用者の状況を伝え、意見を聞いている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、人事考課表に記入し一人ひとりに面接を行い、意見交換の場もあり反映している。また、カンファレンスや申し送り時にも、皆で話し合いの場がもてている。	月1回の職員会では活発な意見交換があり、行事やケア内容について職員から多くの意見が出ている。職員個々の意見は年2回の個別面接の時に聞き、休暇取得や研修参加の希望に応じている。法人の合同会議には管理者が出席し、現場の状況を伝えている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修・資格取得など、各自のスキルアップにつなげるように環境整備に取り組んでいる。また、人事考課表に目を通し面接を行って、各職員の状況把握もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修や外部の研修を積極的に行い、サービスの質の向上に役立つよう努力している。日頃から、職員間で介助の仕方や言葉使い等も、互いに注意しあうようにしている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ご利用者の親族が別の施設におられ、面会に度々お連れし、向こうの施設の様子等も見せていただいたり、姉妹施設のグループホームとは、運営推進会議にも共に参加し刺激を受けたり、イベントを通して一緒に活動している。ほか、研修等で、他施設の方と話しをする機会もある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「困っている事が判らない所が困っている」などの声がよく聞かれるが、入居6ヶ月くらいは、特にその方が不安にならないよう職員が他利用者との間に入り、輪の中へ入れるようにする。また、声かけの回数を増やし声を聞く。ご家族の面会も多くお願いし、落ち着くまでは寂しくならないような提案をしていく。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回に、解らないこと、知りたいことを伺い解決するが、それ以外でも、困ったことや要望等があれば、いつでも相談にのっている。面会時や、月1回はご家族への近況報告で様子もお知らせし、話す機会もある。玄関前に意見箱も設置している。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接において、この施設でどのようにして過ごしたいか、家族背景を含め、ご本人・ご家族の意見を細かく知ることからはじめている。そしてサービス担当者会議で、改めてご本人・ご家族の思いを聞き、プランに生かせるよう取り組み、支援させていただいている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方にできる手伝いや役割をお願いしたり、時には、手伝ってもらったり、手伝ったりしてご利用者同士、あるいは職員とご利用者間で「ありがとう」の声が自然に出ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族に近況報告。また、ご本人に代わり、電話での会話をされたりする。その他、何か変わりある時にも連絡。少しでも多く面会をお願いし、サービス担当者会議は、ご家族にも参加を出来るだけお願いし、一緒に考えていただき、プランにも家族の参加・役割を少しずつ組み込ませてもらっている。		
20	(8)	<b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お宅訪問で自宅へお連れし、家の様子や自宅近辺を見たり、ご近所の方と会う機会もあり、ドライブ等でも馴染みの場所へ出向き、関係維持に努めている。山は過疎化で人がいなくなっている所もあったり、道が悪く出向けない方もおられるが、地域行事の参加等で知り合いに会えたりする。	2カ月に1回を目標に利用者と一緒に自宅を訪れ、近所の人とも会話し交流を懐かしんでいる。地元出身の利用者も多く、地域の商店街への散歩等で、馴染みの人に出会う機会もあり、また、家族の協力を得て、盆や正月の帰省、外食等でこれまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物など皆が協力して畳んでくれ、「これはあなたのよ」と声かけあって手渡しされる風景がある。大方の人が日中ホールで過ごされ、職員が間に入って会話を広げるよう心がけているが、皆さんちょっとした気遣いをされ、お互いを尊重しながらおられる。		
22		<b>○関係を断ち切らない取組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了されても、面会には頻繁に出向いて、その都度様子を皆に報告。また、会いに行きたいと希望されるご利用者もおられ、状況を考えながら一緒に面会に伺っている。また、そのご家族も、こちらの施設へも立ち寄ってくださることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、またプラン見直し時ほか、定期的にご本人の気持ちや要望を伺い検討している。また、入居が浅い人はご家族経由で伺う事もある。ちょっとした日頃の会話や様子を出来るだけ見逃さないよう書き溜め、「ちよいと楽しいお話」として、小冊子を5年前から毎年作成しているが、そうする事で見えてくることも多々ある。	利用者のアセスメントには、センター方式の一部を使用し、利用者の思いを様々な面から把握するよう努めている。利用者は全員意思疎通が可能であり、日々関わる中で言葉に出た思いやエピソードを書きとめ、利用者の全体像の理解につなげている。	
24		<b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に伺うことはもちろんだが、外気浴や入浴時など、落ち着いて会話出来るときに話を広げ聞き取り、新たな情報があればフェイスシートに記入するようにしている。また、面会時などの時にも、何気ない会話でご家族から教えてもらえることなどもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の意思を伺いながら、休みたい時は部屋で横になられたり、散歩やレクリエーション活動など参加していただくが、その人なりの一日のリズムがあったり、様子を把握しながら、対応させていただいている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書は6ヶ月に一度のペースで見直し、主治医の意見を伺い、サービス担当者会議には職員、管理栄養士、ご本人と、ご家族にも参加を呼びかけ、来られないご家族には事前に意見を伺い、会議を行っている。また、ご利用者に大きな変化がある場合は、その都度、会議を開きプランを見直します。	ケアマネジャーである管理者が、利用者へのアセスメント、モニタリングを行い、アセスメント要約表、ケアチェック表を作成して、栄養士や職員が出席する月1回のカンファレンスで協議している。職員全員の意見を聞き取り、出席可能な家族も参加している。介護計画は6カ月で見直し、利用者の楽しみや役割等を主眼におき作成している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のチェック表を毎日記入し、ケアが適切にできているか、様子はどうか確認している。また、その方の状態を見ながら、必要と思われることも（例えば毎日の血圧測定や睡眠状態、排尿の回数等）個別に記録し変化を見て、担当者会議に用いている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の思いや必要とする事は、柔軟に案を出し合いながら対応していきたいと思う。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの残存能力が低下しないように、ご本人が前向きに捉えて発揮できるよう、楽しめる事につながる地域資源も見出し支援に努めている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人・ご家族に説明し、納得していただいて母体法人の病院の医師をかかりつけ医とさせて頂いている。週1回の回診。変化時にも相談・対応している。	利用者・家族は納得して、近くにある母体の協力医療機関をかかりつけ医にしている。協力医は年2回の健診と、週1回の往診を行い、専門医等への通院が必要なときは家族が対応している。家族には事業所から受診に必要な情報を伝え、家族から結果を聞いて記録し、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回のペースで看護部長が訪問に来られ、バイタルチェックほか、ご利用者の様子など一緒に食事を取りながら把握している。変わりある事は職員から報告している。また、24時間体制で、徒歩1分の母体病院に相談・対応してもらえる環境である。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、出来る限りの面会を行っている。その時や電話等で担当者と連絡を取りあい、情報交換、状況把握し、ご本人にとって良好な時に退院できるよう、対応・相談している。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点で、当施設での看取りは行ってはおらないが、ご本人・ご家族の意思を確認しながら、主治医の意見のもと連携して、その方が少しでも穏やかに、一日でも長くホームで過ごすことが出来るよう、支援をさせていただいている。	重度化の対応指針に基づき、協力医との24時間連絡体制のもとで、医療対応が必要となるまで事業所でケアを続け、家族、主治医、看護師、職員と相談しながら、安らかな終末を迎える最適の場所を選択することとし、職員とも方針を共有している。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	院内・外の研修でAEDの取り扱い方や応急手当・初期対応を学んでいる。また、事務所の入口に緊急マニュアルとして、急変時の初期対応の仕方を目に留まるように張り出している。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。また、昨年11月の訓練では、災害に際しての避難体制をDVDで講習・説明を受けた。また、今年の春の訓練では、地区長にも参加いただき、施設内も見学していただき、協力も再度お願いした。毎回、母体病院の防災管理者にも参加してもらっている。	年2回、消防署が協力し避難訓練を実施している。災害時の避難場所は、近くの母体病院とし、自主訓練で避難時間を計測し迅速な避難方法を検討している。火災時の避難経路も定めているが、近隣の応援が必要であり、日頃から協力を依頼している。食料、水は3日分を備蓄している。	避難時の安全性を高めるために、近隣も含め地域との協力体制について、運営推進会議で議題にあげて継続的に検討していくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの人格・思いを尊重し受け止めるよう、表情を見ながら言葉がけをし、信頼関係が築けるよう努力している。	法人が実施する接遇に関する研修に参加し、利用者を尊重する接し方について、理解を深めている。言葉遣いが尊厳を傷つけないよう、職員でフォローし合い、利用者が望む呼び方で声をかけ、ケアに当たっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出・買い物など、ご本人の希望に添えるよう柔軟に対応するように心がけ、時には町内だけでなく佐川や伊野まで出向く事もある。欲しい物をご本人が見て手にして選び、買うことも一つの目標として取り組んでおられる方もいる。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中は部屋でなくホールで過ごされる方が多いが、テレビを見る方、窓の側へ行かれ遠くを眺める方、廊下を歩かれ西側の椅子へ腰掛けおしゃべりされる方、作業を手伝ってくれる方など、ゆったり思い思いに過ごされていると思う。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は、毎朝のヒゲソリや紙にリキッドをつけ、整えておられる方もいる。女性も、部屋のほうに、ブティックハンガーを置き、服を見て選んで着れるようにしている方も数名おり、入居時に提案もしている。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や、ご家族から頂いたものを話題に、皆で話しながら準備や食事をしている。	法人の管理栄養士がメニューを作成し、地元の食材を使って職員が調理している。利用者は、食材の下ごしらえや食器洗い等出来ることを手伝い、職員と一緒に同じ物を食べている。誕生日会等の行事食は、利用者の希望に応え、利用者アンケートの回答も活かして食事を楽しめるようにしている。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量を記録し、ご利用者の体調の変化に気をつけ管理栄養士とも連携している(月2回、管理栄養士と一緒に昼食もとる)。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯利用のご利用者が多いので、口腔ケアは声掛けで入れ歯を外して頂き施行。週1回または必要に応じポリドントを施行。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の希望や体調の悪い時以外は、なるべくポータブルトイレを使わず定期的なトイレ利用を、最小の介助などで行っている。	トイレでの排泄を基本とし、水分摂取のあとは声かけてトイレへ誘導している。夜間もトイレ誘導を行い、ポータブルトイレを使用する利用者は1名になっている。排泄機能の維持に努め、パッド使用がなくなった利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量、食材の工夫、個々の排便パターンの状態などに気をつけて対応している。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ希望にあわせての入浴を心がけている。男性の見守りは恥ずかしいという女性には、女性職員がつくようにもしている。入浴を好まれる方、また清潔を保つ為、週3～4回と入られる方がいる。また、体調が良くない場合は清拭を行っている。	利用者の希望に応じて入浴を支援し、ほぼ毎日入浴する利用者もいる。入浴を拒む利用者はおらず、個人専用のシャンプーを使い、同性介助の要望や浴室と脱衣場の温度差に配慮し、入浴を楽しめるように声かけしている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況、昼間の状態などにより昼寝をされ、身体を休める方もおられる。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の薬剤師の訪問で、利用者の状況の観察、服薬変更による副作用などの説明を受け、体調の変化などに気をつけている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーション活動を積極的に行ったり、お宅訪問や買い物等をされている。その方の一人ひとりの好まれる事、笑顔になることを提案し行うように努めている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候のよいときなどに外気浴の声掛けをし、なるべく多くの人に外の空気を吸って気分転換していただいている。ドライブも、状態に応じて出掛ける範囲を広げ、楽しんでいただくよう心がけ支援している。	外出を好む利用者が多く、午前、午後には歩行練習の時間も設け、外出を楽しめるよう支援している。散歩は利用者ごとに職員が付き添い、片道10～15分程度の距離を歩いている。ドライブは、町内の季節の花見や、町外の買い物に出かけ、衣服や小物類を購入して気分転換を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が自己管理できる方(ご家族と相談して)は銀行や郵便局に同行し、必要な金額を所持できるよう支援している。希望があるものや、必要なものは店に同行して買い物もされる。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の便りや絵手紙を家族に定期的に送り、その時は一言でもご本人の言葉を添えて書いていただく。電話などの連絡がある時は、直接話しができるようにしている。お盆やお彼岸など、家族の面会が多い時など、来れない方には寂しくないよう、電話の提案をして掛けてお話ししてもらっている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や皆で過ごす時間の長いホールでは、共同作業の季節の飾りや写真を壁に貼り、共通の話題で楽しめるようにしている。	廊下は車イスのすれ違いができる幅があり、居間には食卓とソファを配置して、利用者が好きな場所で時間を過ごしている。壁には、利用者と職員が一緒に作成した季節ごとの飾り物を掛け、毎日の日付を大きく表示している。絵手紙等の利用者の作品も掲示し、家庭的な雰囲気を作っている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の好きな決まった場所に座られる方もあり、窓の外を眺めに動かれる方がいたり、廊下奥にも椅子を置いているので、運動がてら歩いて小休止し、ご利用者同士の会話もされる。また、外の駐車場にはベンチを設置しているので、職員と外気浴に思い思いに過ごしている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れたものや、ご家族の写真を飾られたり、歌手のポスターを飾っている方、自分の作った作品や季節の写真を飾ったりとそれぞれの意向を聞きながら、時々張替えさせていただいている。	居室には畳とフローリングの2種類の部屋がある。各居室には、職員が撮影した日常生活をプリントして飾っている。また、好きな歌手のポスターもあり、それぞれ座机やテレビ等馴染みの家具を置いて、落ち着いて過ごせる場所になっている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所、風呂場や自分の部屋など明記し、わかるようにしている。また、部屋の内側にも、「右へいくとトイレがあります」など書いた紙を貼って自分で迷わないようにする工夫も行って、ご利用者に合わせ一人で混乱しないよう、出来る事を行っていただくようにしている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				